

## 水稻新品種‘佐香錦’の育成

高橋眞二、山本朗、杉山万里、岩本正俊、福田誠、藤原耕治、重栖睦弘、田村明長、神田正治、安部浩、田畑光正、門脇義行、広沢敬之、古山武夫、陶山研治

### 摘要

島根県中山間地域を対象とし、良質で、酒造適性が高く、栽培安定性の優れた酒造好適米の開発に取り組み、新品種‘佐香錦’を育成した。

1. ‘佐香錦’は、1985年‘改良八反流’を母本に‘金紋錦’を父本として交配し、その後代から育成した粳種である。F<sub>10</sub>世代で‘島系酒 49 号’の系統名を付し、F<sub>15</sub>世代で奨励品種に採用された。

2. 本品種の育種法には集団育種法を適用した。

3. 新品種‘佐香錦’の特性は次のとおりである。出穂期は‘五百万石’より5日、成熟期は8日遅く、島根県では極早生に属する。やや長稈、偏穂重型で、草姿及び熟色は良好で、無芒、脱粒性はやや難である。収量性は‘五百万石’並みかやや高い。いもち病抵抗性はやや弱で、白葉枯病抵抗性は中である。耐冷性はやや弱である。玄米外観品質は‘五百万石’並みで、良質である。酒造適性は‘五百万石’‘神の舞’‘改良雄町’を上回り、‘改良八反流’に近い性質を持つことが認められた。酒の官能評価は、搗精歩合 45%までなら、‘山田錦’と同程度で良好である。

4. 本品種は、島根県中山間地域の標高 300m 以下の地帯で、地力中庸地の早植栽培に適応する。

5. 栽培にあたって、耐冷性が劣るため極端な早植えを避け、倒伏の発生を防ぐため極端な多肥栽培は行わない。穂発芽の発生を防止するため適期収穫に努める。いもち病の基幹防除の徹底を図るとともに、白葉枯病常発地での栽培は避ける。